

# 福島の子十勝で夏休み

東日本大震災による原発事故が起きた福島県の子供たちを十勝に招く2つの取り組みが今年も始まり、現地の小・中・高校生が相次いで来勝した。十勝の自然や食などを楽しみながら、夏休みを過ごす。

## PGやばんえい楽しんで

### 星槎グループと小・中学生20人招待 市の支援事業



帯広入りし、歓迎会に臨んだ福島県相馬市の小・中学生ら

20人が帯広入りした。8月5日までの9日間、多彩な体験プログラムを通じて十

勝での生活を楽しむ。

同事業は「原発事故の影響で屋外活動が制限されている子供たちに、北海道の豊かな自然環境を過ごす機会を」と、星槎大学帯広サテライトなどを運営する同グループが中心となって昨年から実施。子供たちは27日に相馬を出発し、翌日午後には帯広に到着した。この日、帯広百年記念館

で開かれた歓迎式では、相馬市立中村第一中3年の杉沙矢香さん(14)が「初めての北海道。景色や食べ物を楽しみ、元気に過ごしたい」とあいさつ。その後は自己紹介や簡単なゲームを通して、子供たち同士で交流を深めた。

滞在中はソーセイシ作りやパークゴルフ(PG)体験、ばんえい競馬の見学な

どの文化・野外体験活動を予定している。(小縣入輝)

28日には星槎グループの支援事業で、相馬市内の(本部神奈川県)と帯広市小学3年生、中学生3年生